

Air Defresh

エア－リフレッシュプロ車両別施工用マニュアル

OBERON
CO.,LTD.

<http://www.oberonjp.co.jp/>

2011.4.22改訂

目次

【一般施工車両編】...排水ドレンホースからの施工編

2P ~ 9P

【特殊施工車両TOYOTA編】

車種: マークX		10P参照	ブローファン取外し施工
ゼロクラウン		10P参照	ブローファン取外し施工
エスティマ	型式:50系 40系 30系	11P・12P参照	ブローファン取外し施工
エスティマハイブリッド	型式:20系 10系	11P・12P参照	ブローファン取外し施工
アルファード	型式:10系 20系	11P・12P参照	ブローファン取外し施工
アルファードハイブリッド	型式:10系	11P・12P参照	ブローファン取外し施工
ヴェルファイア	型式:20系	11P・12P参照	ブローファン取外し施工
ノア、ヴォクシー	型式:60系 70系	11P・12P参照	ブローファン取外し施工
セルシオ	型式:30系	作成中	ブローファン取外し施工
プログレ	型式:10系	作成中	ブローファン取外し施工

車種: ハイエース	型式:KDH201・206	13P参照	車室内の排水ドレンホースからの施工 (排水ドレンホースが見当たらない)
レジェース	型式:TRH200・216・221	13P参照	車室内の排水ドレンホースからの施工 (排水ドレンホースが見当たらない)
bB	型式:NCP30・31・35	14P参照	車室内の排水ドレンホースからの施工 (排水ドレンホースが見当たらない)
ポルテ	型式:NNP10・11・15	14P参照	車室内の排水ドレンホースからの施工 (排水ドレンホースが見当たらない)

車種: セルシオ	型式:20系	作成中	排水ドレンホースからの施工 (ドレンホースが2本ある。どちらかでOK)
----------	--------	-----	--

【特殊施工車両NISSAN編】

車種: ステージア	型式:W34	15P参照	排水ドレンホースからの施工 (ドレンホースの径が太く、ゴム栓で栓ができない)
-----------	--------	-------	---

車種: フェアレディZ	型式:Z33	16P参照	車室内からの施工 (排水ドレンがフレームに隠れている)
-------------	--------	-------	--------------------------------

車種: マーチ	型式:K11	17P参照	エアコンフィルターからの施工 (排水ドレンホース施工はECUへの影響大)
キューブ	型式:Z10	17P参照	

車種: グロリア・セドリック	型式:Y34	18P参照	車室内の排水ドレンホースからの施工 (エアコンフィルターから施工するとブロワモーター破損する)
----------------	--------	-------	--

【特殊施工車両HONDA編】

車種: ライフ	型式:JB5・6・7・8	19P参照	ドレンホースにノズルがほとんど入らない
---------	--------------	-------	---------------------

車種: オデッセイ	型式:RB1・2, RB3・4	20P参照	排水ドレンホースからの施工 (ドレンホースが長く、複雑に屈折している)
ライフ		20P参照	

車種: エリシオン	型式:RR1 ~ RR6	21P参照	車室内からの施工 (排水ドレンホース施工はECUへの影響大)
オデッセイ	型式:RA6 ~ 9	作成中	ブローレジスタより施工 (排水ドレンホースに手が届かない)

【特殊施工車両DAIHATSU編】

車種: タント	型式:L375S L385S L455S L465S	22P参照	排水ドレンホースからの施工 (施工後香りがしにくいケースがある)
ムーブ	型式:L175S L185S L575S L565S	22P参照	
ミラ	型式:L275S L285S L675S L685S	22P参照	

【特殊施工車両SUZUKI編】

車種: ラパン	型式:HE21S	23P参照	排水ドレンホースからの施工 (施工するとエアコンフィルターが濡れる)
---------	----------	-------	---------------------------------------

【一般施工車両編】

排水ドレンホースからの施工編

- ①A/CスイッチON、風向：上下の状態で作成を止め、リフトアップをしてください。
- ②エンジン付近に出ている排水ドレンホースに、付属の注入ノズルが入るところまで、挿入してください。※専用ゴム栓(別途用意)で栓をしていただくにより確実に作業できます。

車両下部エンジン付近(助手席側)



拡大



ドレンプラグ(ゴム栓)



【ご注意】一部車両の中に、注入ノズルが数センチしか挿入できない車両がございます。その際はドレンプラグ(ゴム栓)を使用した作業をおすすめします。
また、車両によっては、ほんの少し排水ドレンホースを引っ張りながら注入ノズルを挿入

- ③ボトル(エアリフレッシュプロ)をよく振り、ボトルの噴射口とチューブをしっかりと接続し、ボトルのボタンを強く押し下げ、エアリフレッシュプロ注入してください。

【ご注意】ボトルのボタンはワンプッシュ固定式です。
最初は軽く押してムースを少し出してみ、きっちりムースが入ることを確認した後に、カチッと音がしてボタンが返ってこないところまでしっかり押し切って



- ④1～2分でムースが全て噴射したことを確認し、そのまま約10分放置して下さい。
- ⑤エンジンを始動後、A/CスイッチをONのまま、内気循環・風量最大にて約5分放置して下さい。
以上で作業は終了です。

(注意点)

車両によってはドレンホースが曲がっており、チューブがエバポレーターまで到達しない車両もありますが、本製品はムース状で約37倍に膨らむためユニット全体に行きわたります。
*ドレンプラグ(ゴム栓)を使用すると、より効果的に施工を行うことができます。

【一般施工車両編】

排水ドレンホースからの施工編 ～車両例～

ヴィッツ : SCP10



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



ヴィッツ : NCP13、15



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



イスト : NSP60



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



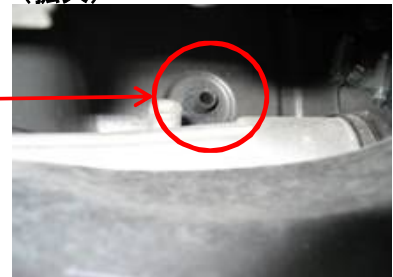
ラクティス
: SCP100、NCP100、105



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



bB : NCP30、31、35



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



【一般施工車両編】

排水ドレンホースからの施工編 ～車両例～

ルミオン : NZE151N



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



ウィッシュ:ZNG10G、14G



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



スパシオ : AE111N



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



カリブ :AE115G



フロント左タイヤハウス付近(助手席側)



(拡大)



セリカ : ZZT230、231



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



【一般施工車両編】

排水ドレンホースからの施工編 ～車両例～

RAV4 : ACA31W、36W 車両下部エンジン付近(助手席側)



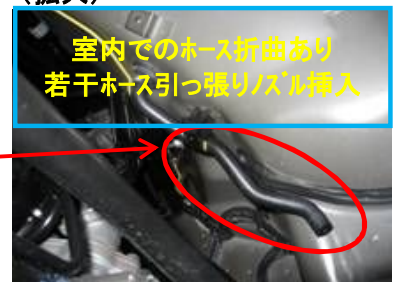
ハリアー: ACU30W、35W



車両下部エンジン付近(運転席側)



(拡大)



ヴァンガード : ACA33W



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



ハイラックスサーフ: RZN185 エンジンルーム(助手席側手前)



(拡大)



イプサム : SXM10G、15G 車両下部エンジン付近(助手席側)



【一般施工車両編】

排水ドレンホースからの施工編 ～車両例～

ピスタ : SV40、43



エンジンルーム(助手席側の低位置)



(拡大)



ウィンダム : MCV20、21



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



アリオン : ATZ240T



車両下部エンジン付近(助手席側)



(エンジンルーム上から)



※下、上の両方接続可能

クラウン : JZS130



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



アリスト : JZS160、161



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



【一般施工車両編】

排水ドレンホースからの施工編 ～車両例～

エスティマエミーナ、ルシーダ
:TCR10G



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



ハイエース(レジアスエース)
:RHZ、KZH100～120



車両下部フロント付近(助手席側)



(拡大)



【一般施工車両編】

排水ドレンホースからの施工編 ～トヨタ車以外の車両例～

NISSAN
テラノレグラス : KD-JRR50
E-JLR50



エンジンルーム上から(助手席側)



(拡大)



【一般施工車両編】

排水ドレンホースからの施工編 ～トヨタ車以外の車両例～

DAIHATSU
ハイゼット : LE-S320V



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



SUZUKI
ワゴンR : MC21S
アルトワークス: HA22S



エンジンルーム上から(助手席側)



(拡大)



HONDA
フィット : GD1、GD2、
GD3、GD4



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



SUBARU
インプレッサ : GG2、3、9



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



MITSUBISHI
ランサー : CS2A



車両下部エンジン付近(中央部分)



(拡大)



【一般施工車両編】

排水ドレンホースからの施工編 ～トヨタ車以外の車両例～

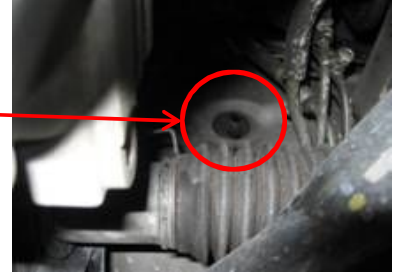
NISSAN
プリメーラ : QP11



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



NISSAN
リパティアー : PM12、PNM12



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



NISSAN
ティーダ : C11、NC11、JC11



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



NISSAN
エルグランド : ATE50
APE50、APW50、ALWE50



車両下部エンジン付近(助手席側)



(拡大)



NISSAN
エルグランド : ME51



車両下部の助手席下付近



(拡大)



【特殊施工車両編】・・・ TOYOTA

エアコンフィルターからの施工編・・・*排水ドレンホースが見当たらない車種の場合

マークX: GRX120、125

ゼロクラウン: GRS180、181、182

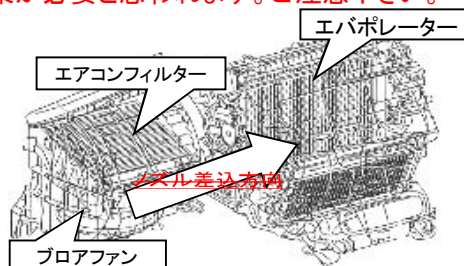
レクサス IS250、350 など



※セルシオ・マジェスタ(型式未確認)についても、同様の作業が必要と思われます。ご注意ください。

【ご注意】

右の構成図のようにエバポレーターはブロアファンを正面に見たとき、時計の3時の方向にあります。注入ノズルを差し込む時は、エバポレーターに一番近い場所から差し込んで施工してください。またノズルはどこまでも入りますので



- ①A/CスイッチON、風向:上下の状態状態でエンジンを止め、エアコンフィルターを外します。
 - ②ボトル(エアリフレッシュプロ)をよく振り、ボトルの噴射口とチューブをしっかりと接続してください。
 - ③ボトルのボタンを強く押し下げ、エアリフレッシュプロ注入してください。
 - ④注入後、約10分間放置してください。
 - ⑤エンジンを始動後、室内消臭の為、窓ガラスを閉め、A/CスイッチをONにし、内気循環・風量最大にて約5分放置してください。
- 以上で作業は終了です。

ブロアファン取り外し施工編・・・排水ドレンホースが見当たらない車種の場合

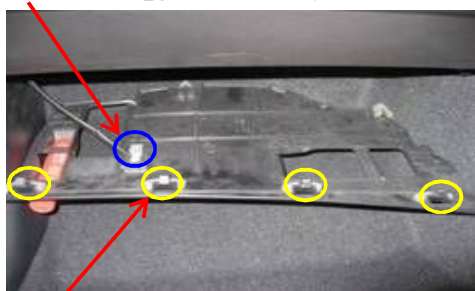
対象代表車両)・・・マークX (GRX120)／ゼロクラウンほか

※施工マニュアル特殊タイプⅡのエアコンフィルターから施工するタイプですが、より確実な作業を行っていただく方法として、下記作業工程をご紹介します。

【助手席足元を覗き込み、逆さまに見てください】※画像の車両はマークX

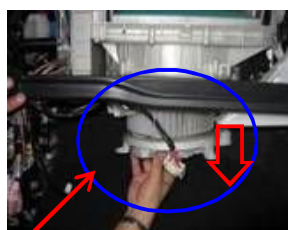
①アンダーカバーを取り外します。

・コネクターを抜いてください。



・4箇所のフックを外すとカバーは簡単に外れます。

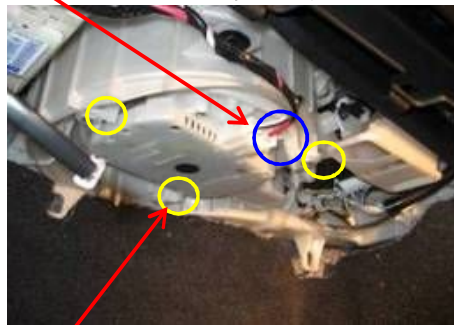
②ブロアモーター(ファン)部分を取り外し②



・ネジを外すとモーター(ファン)部分が外れます。ゆっくりと下へ下げて取り外して下さい。

②ブロアモーター(ファン)部分を取り外し①

・ブロアモーターが見えますのでコネクターを外して下さい



・モーター固定の3本の(+)ネジを外して下さい。

④エアリフレッシュプロを注入します。



・付属のチューブを図のようにエバポレーター(車両中央)に向けて挿入して下さい。 ※20～30cm程でエバポレーターへ到達します。

エアリフレッシュプロ 施工注意情報



トヨタ エスティマ(50系、40系、30系)、エスティマハイブリッドは(10系、20系)
アルファード、アルファードハイブリッド(10系、20系) ヴェルファイア(20系)
ノア、ヴォクシー(60系、70系)

上記トヨタ車ミニバンにおいて通常のドレンホースからの施工では
液剤がヒーターユニットの継ぎ目から漏れてGPUに付着する恐れがあります。

原因

エバポレーターからヒーターユニットにかけて傾斜しており(ヒーターユニットが下側)、
また、ドレンホースがヒーターユニットとエバポレーターユニットの間にあるため
ドレンホースからの施工では液剤がヒーターユニット側へ逃げてしまう。

ノア(70系)での施工の様子



(画像 I)



(画像 II)

(画像 I) ドレンホースより通常通り施工。液剤が注入し終わり10分間放置している様子。

(画像 II) 10分間放置し、最冷、最大風量でエアコンをかけている様子。

ヒーターユニットの下辺りにある純正のCPUの配線部にはビニールのカバーが施してあります。
しかしセキュリティ、エンジンスターター、地デジチューナーなどのユニットやセンサー類を
取り付けるのに最適な場所のため、後付けの電装品に影響を及ぼす可能性があります。

施工は別紙の施工マニュアル(追加版)の通り、ブロワモーターを外しての施工を行ってください。

施工前に温度調整を最冷にしておいてください。オートエアコンでは設定後エンジンを止めてください。

また、左右独立式の温度設定があるものは運転席、助手席ともに行ってください。

温度設定を最冷にすることでエアミックスダンパー(温度調整のフラップ)が閉じた状態を維持し、

ヒーターユニット内への通路を遮断することにより液剤が逃げることを防止できます。

【特殊施工車両編】・・・ TOYOTA

ドレンホースより施工するとCPUが濡れる恐れがある

トヨタ エスティマ(50系、40系、30系)、エスティマハイブリッドは(10系、20系)
アルファード、アルファードハイブリッド(10系、20系) ヴェルファイア(20系)
ノア、ヴォクシー(60系、70系)



※注意事項

エバポレーターからヒーターユニットにかけて傾斜しており、ドレンホースからの施工ではヒーターユニットの継ぎ目から液剤が垂れてCPUを濡らしてしまう恐れがあります。CPUのカプラー部にはビニールのカバーが施してあり特に問題はありますが、念のため下記の方法で施工して下さい。



(写真Ⅰ)



(写真Ⅱ)



(写真Ⅲ)



(写真Ⅳ)

エバポレーター

写真は平成19年式エスティマ(GSR50W)

基本的な構造は同じため上記の作業要領でその他掲載車種も施工可能です。

- ①赤丸印のロック3ヶ所をつまんで、助手席足元のカバーを外します。(写真Ⅰ)
- ②赤丸印の8mmボルト3本とカプラーを外し、ブロウモーターを取り外します。
青丸印の配線ステーのプラスビスを外すとより作業がしやすくなります。(写真Ⅱ)(写真Ⅲ)
- ③青矢印がエバポレーターになります。チューブの挿入は赤矢印の方向(右手前方向)に向けて40cmほど挿入し通常通り施工します。(写真Ⅳ)

実際はセンターコンソールの足元パネルがあるため青矢印のエバポレーターは見えませんが、パネルを外さなくても施工は行えます。

施工時は噴射の勢いでチューブが抜けないように手で押さえるか、テープなどで固定して下さい。

施工時は受け皿やウエス等を準備し、液剤がフロアカーペットに付着しないように注意して下さい。

【特殊施工車両編】・・・ TOYOTA

室内助手席側からの施工編・・・*排水ドレンホースが見当たらない車両の場合

ハイエース(レジアスエース)

:KDH201、206 TRH200、216、221



①A/CスイッチON、風向:上下の状態にエンジンを止め、センターコンソール下部を外します。

1)クリップを外し、カバーを外してください。



2)排水ドレンホースが見えます



3)排水ドレンホースを引き抜いて、チューブを挿入してください。



②ボトル(エアリフレッシュプロ)をよく振り、ボトルの噴射口とチューブをしっかりと接続してください。

③ボトルのボタンを強く押し下げ、エアリフレッシュプロ注入してください。

***フローアへの液ダレを予防するため、ドレンプラグ(ゴム栓)をご使用下さい**

④注入後、約10分間放置してください。

(※チューブを外す際、液が出てきますので受け皿等を準備してください)

⑤エンジンを始動後、室内消臭の為、窓ガラスを閉め、A/CスイッチをONにし、内気循環・風量最大にて約5分放置してください。

以上で作業は終了です。

(注意点)

エアリフレッシュプロ注入後、チューブを外す作業の際に受け皿が必要になります。(チューブから逆流した液がフロアマットへの付着防止のため)

【特殊施工車両編】・・・ TOYOTA

室内助手席側からの施工編

* 排水ドレンホースはあるが車内からの方が確実な施工ができる車両の場合

トヨタ bB

CBA-NCP30、CBA-NCP31、CBA-NCP35

トヨタ ポルテ

CBA-NNP10、CBA-NNP11、CBA-NNP15



①A/CスイッチON、風向：上下の状態にエンジンを止め助手席側のドレンホースを抜きます。

1) 助手席側グローブBOX右下(センターコンソール左下)にドレンホースのジョイント部があります。



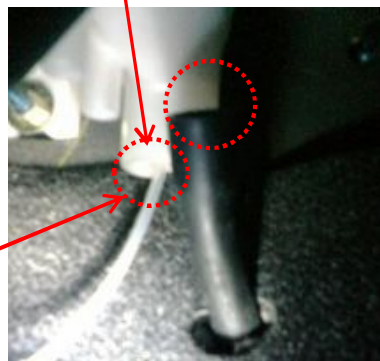
フローアへの液ダレを予防するため
ドレンプラグ(ゴム栓)をご使用下さい

2) 排水ドレンホースを引き抜いてチューブを挿入してください。



ジョイント部分

注入口



②ボトル(エアリフレッシュプロ)をよく振り、ボトルの噴射口とチューブをしっかりと接続してください。

③ボトルのボタンを強く押し下げ、エアリフレッシュプロを注入してください。

* フローアへの液ダレを予防するため、ドレンプラグ(ゴム栓)をご使用下さい

④注入後、約10分間放置してください。

(※チューブを外す際、液が出てきますので受け皿等を準備してください)

⑤エンジンを始動後、室内消臭の為、窓ガラスを閉め、A/CスイッチをONにし、
内気循環・風量最大にて約5分放置してください。

以上で作業は終了です。

(注意点)

エアリフレッシュプロ注入後、チューブを外す作業の際に受け皿が必要になります。(チューブから逆流した液がフローアマットへの付着防止のため)

【特殊施工車両編】・・・ NISSAN

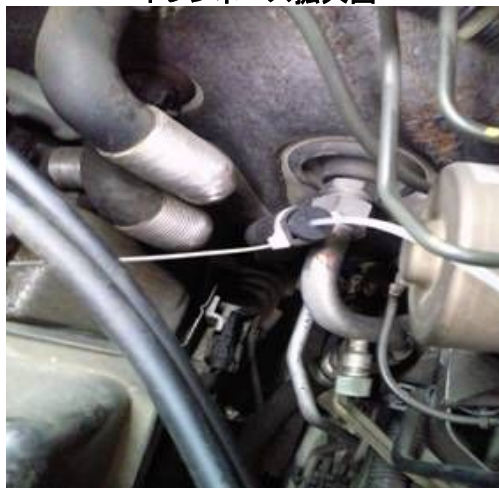
ドレンホースの径が太く、ゴム栓で栓が出来ない・・・ゴム栓を挿入後、タイラップで固定

日産 ステージア(W34)

ドレンホース配置図



ドレンホース拡大図



ドレンホース

ドレンホースはエアコン配管の斜め下辺りにあります。
ドレンホースの角の部分を押さえ、チューブの位置を手で確認しながら挿入します。
太く長いので50cmほどでエバポレータへ到達します。
ゴム栓をしてタイラップで縛ります。
写真は撮影用にドレンホース上向きにしています。

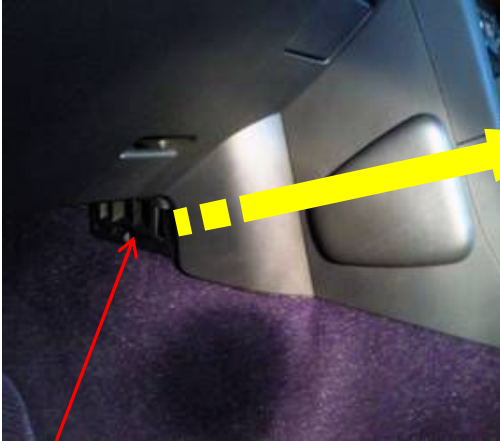
【特殊施工車両編】・・・ NISSAN

排水ドレンがフレームに隠れている為、車外での施工が出来ない

【対象車両例】日産 フェアレディーZ(Z33)

ドレンホースはエバポレーターケースから助手席足元を通過してサイドのフレームに入っています。下廻りからドレンホースは確認できますがチューブが挿入できない為、車内より施工します。

施工前(全体図)



助手席側エアコン足元吹き出し口



拡大図

ツメ(3箇所)

ドレンホース

- ・まず助手席側エアコン足元吹き出し口を取り外しま
- 右上图のようにツメ(3ヶ所)があるので割らないように注意して下さい。
- ※ツメは外側に押さえながら外します。(年式、グレードにより写真と違うことがあります)



ホースクランプ

- ・吹き出し口を外し、フロアカーペットをめくるとドレンホースが見えます。(全体図)参照
- (拡大図)のようにドレンホースにはホースクランプが付いています。
- 無理に外すとドレンホースがちぎれます。
- 必ずクランプを外してからドレンホースを抜いてください。
- ・ドレンホースを外し、エバポレーターケースに直接ゴム栓をして施工します。(施工図)
- チューブは20cmほどでエバポレーターへ到達します。
- 施工後ゴム栓を外す際には多量の水が出てきます。
- 実際の施工時には必ず受け皿やウエス等を準備し、
- 本剤がフロアカーペットに付着しないように注意して下さい。

- ・ゴム栓を抜き、ドレンホースを元通りに戻して、通常作業通り内気にて5分循環させ
- 作業終了です。

【特殊施工車両編】・・・NISSAN

エアコンフィルターからの施工編・・・*液剤がECUを濡らしてしまう恐れあり

日産 マーチ(K11)、キューブ(Z10)



上記車両はドレンホースより施工すると液剤がヒーターユニット側へ逃げて、ユニットの継ぎ目から液剤が垂れてしまいECUを濡らしてしまう恐れがあります。(写真左参照)

ドレンホースからの施工は危険なため、下記に従い**※必ずエアコンフィルターより施工してください。**

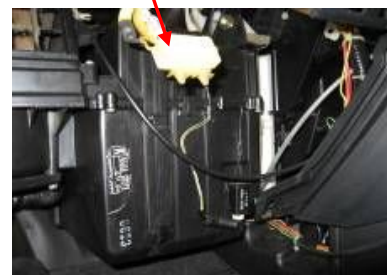
エアバッグカプラー



(写真Ⅰ)



(写真Ⅱ)



(写真Ⅲ)



(写真Ⅳ)



(写真Ⅴ)

- ①グローブボックスを取り外します。グローブボックス内に(写真Ⅱ)のようなツメが付いている場合はあらかじめ外しておきます。**エアバッグカプラーのため無理にグローブボックスを外さないでください。(写真Ⅲ)**
- ②ロックピンを外して、エアコンフィルターを取り外します。(写真Ⅳ)
- ③フィルター取り付け口をガムテープなどで塞ぎ、テープの隙間からチューブを挿し込み通常通り施工します。(写真Ⅴ)
施工時は受け皿を用意し液剤がフロアマットに付着しないように注意して下さい。

【特殊施工車両編】・・・ NISSAN

エアコンフィルターから施工するとブロワモーターを破損する恐れがある

日産 グロリア、セドリック(Y34)



ブロワーファン

※注意事項

左写真のようにファンとモーター部の隙間が広く、ファンの中心部の下には穴があり、モーター部との距離もわずかしありません。そのためブロワファンの隙間から施工用チューブを挿入する施工方法ではファンの隙間が狭いため、チューブがユニット側へうまく行かないことがあり、モーターなどの重要部品に液が付着し故障する恐れがあります。本車種では施工は以下の手順で行って下さい。



(写真Ⅰ)



(写真Ⅱ)



(写真Ⅲ)



(写真Ⅳ)

- ①助手席足元の吹き出し口(赤丸印)を外します。ツメは上と右に2ヶ所。(写真Ⅰ)(写真Ⅱ)
- ②フロアカーペットをめくるとドレンホースが見えます。ドレンホースをエバポレーターケースから抜き、ゴム栓をしチューブを15cmほど挿入し通常通り施工します。(写真Ⅲ)(写真Ⅳ)

※施工時はウエス等を準備し液剤がフロアカーペット等に付着しないように注意してください。

【特殊施工車両編】・・・ HONDA

ドレンホースにノズルがほとんど入らない ホンダ ライフ(JB5、6、7、8)

全体図



拡大図



室内図



施工図



ドレンホースはATシフトリンケージ下にあります。
ドレンホースの形状が室内から湾曲しているため、
チューブを上下左右に振ったり、回したりしながら
挿入してください。
40cmほどでエバポレータへ到達します。

【特殊施工車両編】・・・ HONDA

ドレンホースが長く、複雑に屈折している為、施工ノズルが上手く入らない

対象車両例・・・オデッセイ(RB1、2) ライフほか

※ライフに関しては追加方法です。

【運転席足元全体図】



ドレンホースは長く複雑なため、注入ノズルが入りにくいので室内より施工します。

ATシフトリンケージ

ドレンホース



・ドレンホースはパーキングブレーキペダルの奥にあります。
※Pレンジでパーキングブレーキを解除します。

・ATシフトリンケージに沿うようにドレンホースが見えます。



・図のようにドレンホースをエバポレーターケースから外し、ゴム栓を直接差し込んで施工します。
※チューブは20cmほどでエバポレーターへ到達します。

- ドレンホースをボディ側から引き抜いての施工は行わないで下さい。
ホースの形状が複雑なため復元が困難です。
- 写真は撮影用に用意したものです。
実際の施工時、特にゴム栓を外す際には多量の廃液が出てきます。
受け皿やウエス等を用意し、フロアカーペットが濡れないように注意して施工して下さい。

・注入後、10分放置し、上記の通り、廃液の漏れ防止を行った後、ゴム栓を抜いて下さい。
・ドレンホースを元通り差し込んで、内気で5分循環させて作業終了です。

【特殊施工車両編】・・・ HONDA

ドレンホースより施工するとCPUが濡れる恐れがある

対象車両 ホンダ エリシオン(RR1～6)



※注意事項

エバポレーター、ヒーターユニットの下にCPUがあり、ドレンホースからの施工ではユニット継ぎ目より液剤が垂れてCPUを濡らしてしまう恐れがあります。必ず下記の方法で施工してください。



(写真Ⅰ)



(写真Ⅱ)



(写真Ⅲ)



(写真Ⅳ)

エバポレーター

- ①赤丸の助手席足元のアンダーパネルを外します。(写真Ⅰ)
- ②赤丸のプラスビス2本とカプラーを外し、レジスターを取り外します。(写真Ⅱ)(写真Ⅲ)
- ③青矢印がエバポレーターになります。
レジスターの取り付け口から赤矢印の方向へチューブを20cmほど挿入し通常通り施工します。(写真Ⅳ)

＜施工時の注意点＞

施工時は噴射の勢いでチューブが抜けないように手で押さえるか、テープなどで固定してください。また、受け皿やウエス等を準備し、液剤がフロアカーペットに付着しないように注意してください。

【特殊施工車両編】・・・ DAIHATSU

施工後ミントの香りがしにくいケースがある車両

※下記作業上の注意をお読みいただき、確実に施工することで回避ください。

ダイハツ タント、タントカスタム(L375S、L385S) タントエグゼ(L455S、L465S)
ムーブ、ムーブカスタム(L175S、L185S) ムーブコンテ(L575S、L585S)
ミラ(L275S、L285S) ミラコア(L675S、L685S)



(写真Ⅰ)



(写真Ⅱ)



(写真Ⅲ)



(写真Ⅳ)

参考車両 タント(L375S) 平成20年式

ドレンホースは、助手席側ステアリングラックブーツの上にあります。(写真Ⅰ)
車内でドレンホースが屈折しているため、チューブをエバポレーターまで到達させるのは難しいので、
車外に出ているドレンホースをまっすぐにして、チューブを左右に捻りながら挿入してください。
(写真Ⅱ)(写真Ⅲ)(写真Ⅳ)
15cmほどでエバポレーターへ到達します。

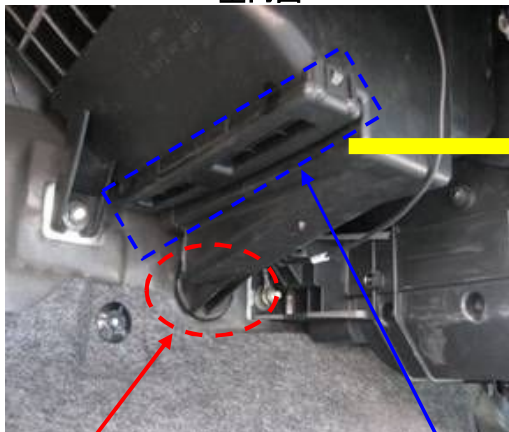
注意) エアコンフィルターからのチューブ挿入は、エバポレーターまで距離があるので行わないでください。

車内のドレンホースをつまみ、チューブが確実に挿入できていることを確認してください。
車外に出ているドレンホースの長さと同程度の長さ以上にチューブを挿入すれば
施工できます。

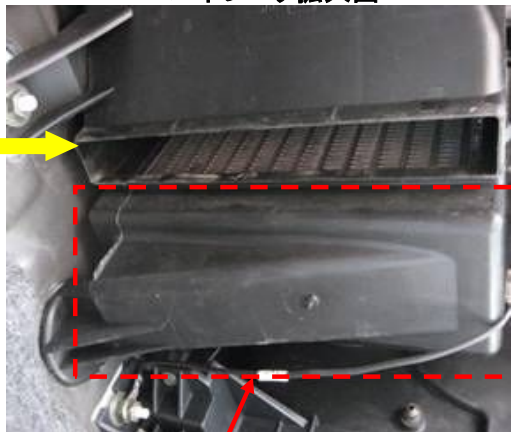
【特殊施工車両編】・・・SUZUKI

エアコンフィルターがエバポレータ横に位置し、施工するとフィルターが濡れる
スズキ ラパン(HE21S)

室内図



エバポレータ拡大図



車外ドレンホースへ エアコンフィルターカバー エバポレータ部分(画面左がエンジン方向)

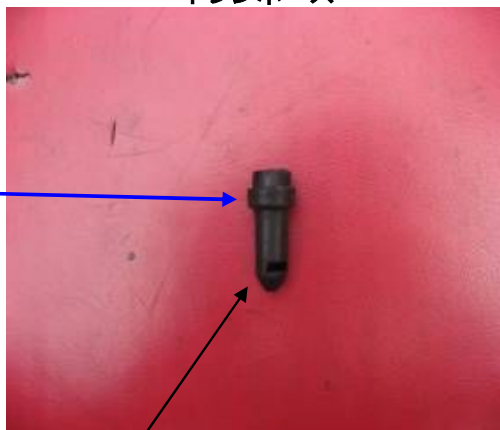
- ① 先ずエアコンフィルターカバーを開け、フィルターを外す。
- ② 再度カバーを付けておいて下さい。
- ③ カバーにはパッキンが付いていますが念のためトレーを置くなどして、施工中に液剤が垂れ落ちないようにご注意ください。

※拡大図のようにフィルターの真横にエバポレータがあるため
外さずに施工するとフィルターが本液剤で濡れてしまいます。

ドレンホース配置図



ドレンホース



ドレンホースはエアコン配管の斜め下辺りにあります。
形状が特殊なため、ドレンホース先端を外しエバポレータケースに
直接エアリフレッシュのノズルを差し込んで施工して下さい。
チューブは30cmほどでエバポレータへ到達します。
施工後は必ずドレンホースの穴を下に向けて取り付けください。